

平成31年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（春季）

刑 法

以下の問題④から問題⑩までの4問のうち、3問について解答しなさい。なお、どの問題について解答したのか、きちんと記号を解答用紙に明記すること（明記の無い場合には大幅な減点となる）。

問題④

以下の(1)および(2)に解答しなさい。

(1)「客観的処罰条件」とは何か？その定義内容を説明した上で、「客観的処罰条件」と「(客観的)構成要件」との違いについて、述べなさい。

(2)市長選に立候補した民間人Yは、選挙期間中にYの個人事務所の執務室で建設会社社長Aの訪問を受け、「Yさんが市長に当選した暁にはぜひ市民ホール建設の発注をわが社にお願いしたい」旨の依頼を受けた上で、「選挙には何かと必要でしょう」と現金300万円の提供を受け、それを受け取った。Yの古くからの友人であり、今回のYの立候補についてボランティアで応援活動もしていたXは、たまたまYの事務所の執務室の隣の待合室でYとの面談を待っていた時に、上記のYとAのやり取りを聞いてしまった。しかしもともとYを応援するつもりであったXは、その後もYの選挙活動をボランティアで手伝い、また投票に際してもYに投票した。この結果、Yは市長に当選した。XおよびYの罪責を検討せよ。

問題⑥

XとTが夜道を歩いていたところ、日ごろから兩人と折り合いの悪いOが前方から近づいてきたので、TはOから危害を加えられるものと誤信し、身を守るためにOを殴打しようと身構えた。この状況を認識したXは、Oが危害を加えることはないと思ったが、このままOが殴打されたらいい気味だと思い、殴打するための棒をTに手渡し、Tはこれを用いてOを殴打して傷害を負わせた。しかしOは夜道のためそもそもXおよびTに気づいておらず、ただ単に誰か(XとT)と道をすれ違うつもりしかなかったのであって、XおよびTに危害を加えようとしていたわけではなかった。XおよびTの罪責を検討せよ。

問題⑨

名誉毀損罪(230条)の保護法益と、侮辱罪(231条)の保護法益の、それぞれの具体的内容(「名誉」の内容)はどのようなものと考えべきか？他説を批判しつつ、自分の考えを理由もつけて説明しなさい。

問題⑩

以下の(1)、(2)および(3)に解答しなさい。

(1)未成年者Xがコンビニで、店員に対して成年者と偽ってタバコを購入した。Xの罪責を検討せよ(ただし特別法違反の点は検討しなくてよい)。

(2)未成年者Yがコンビニで、店員の隙を見て、販売用のタバコが置かれている所にタバコの代金（および消費税分の金額）を置いて、勝手に（通常の会計手続をすることなく）タバコを持ち去った。Yの罪責を検討せよ（ただし特別法違反の点は検討しなくてよい）。

(3)暴力団員Zが、暴力団関係者の利用を拒絶しているゴルフ場において、自分が暴力団員であることを申告せずに、一般利用客と同様に、氏名等を偽りなく記入して利用を申し込み、施設を利用し、その際に通常の一般利用客が支払うこととされている料金をきちんと支払った。Zの罪責を検討せよ。

以 上